

※() 内は20人以上の団体料金。

※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、難病に関する医療受給者証の交付を受けている方、及びその介護者1人、 岐阜市内在住の70歳以上の方は、証明書などを提示すると無料。岐阜市内の中学生以下の方は無料。

※家庭の日【9月18日(日)、10月16日(日)、11月20日(日)、12月18日(日)】に入館する中学生以下の方と、その家族は無料。

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施しています。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



加藤 栄三 「山の郵便局」

2022. 9/13(Tue)-12/18(Sun)

2022. 11/1 (Tue)—12/18(Sun)

NIHONGA 榮の会

2022. 9/13(Tue)-10/30(Sun)



月岡 榮貴 「大国主命と兎」 月山荘 山中 晃 蔵

〒500-8003 岐阜市大宮町1-46(岐阜公園内) TEL・FAX 058(264)6410

開館時間:午前9時一午後5時(午後4時30分までにご入館ください) 休館 日:月曜日【9月19日、10月10日は開館】、

9月20日(火)、10月11日(火)、11月4日(金) 料:高校生以上310円(団体250円)、小中学生150円(団体90円)











- 文化の時代 心に潤いと豊かさを ●会報の配布、各種催しものの案内が受けられます。●展覧会などの催しものが無料で何回でも観覧できます。●会員の引率する観覧者は団体割引料金になります。

加藤 栄三「涼」(部分)

貴方も友の会会員になってみませんか!

JR岐阜駅または名鉄岐阜駅前から、長良橋方面行きパスで 「岐阜公園・歴史博物館前」で下車(所要時間約15分) 徒歩約5分(岐阜公園内・ロープウェー駅横)

駐 車 場 岐阜公園北側の堤外駐車場(有料)をご利用ください。

なるべく公共交通機関をご利用ください。

名鉄岐阜駅

栄三・東一 岐阜を描く

2022年9月13日(以~12月18日(日)

加藤栄三・東一は、東京美術学校卒業後、関東に居を構え日展を舞 台に作品を発表していきますが、幼児期に遊んだ金華山や長良川を 懐かしく思い、たびたび帰郷しては岐阜の風物を描き留めていました。 本展では、収蔵作品の中から栄三が創造美術展に発表した「月響」の 大下絵とスケッチ、東一が描いた金華山のスケッチと本画(完成作品) をはじめ二人が描いてきた岐阜の風景や祭りなどを紹介します。

「長良川は私たちの母なる川であり、金華山は私たちの父なる山と言 える。」という故郷岐阜をこよなく愛した望郷の念を二人の作品から読 み取っていただければ幸いです。



加藤 東一「金華山(スケッチ)」

NIHONGA 榮の会

2022年9月13日(以~10月30日(日)

昭和49年、愛知県立芸術大学は開学からほどなく、教育参考資料の作成と中部の文化向 上のため、昭和24年に模写制作中に焼損した法隆寺金堂壁画を焼損以前の状態に再現 するための模写事業に着手します。

模写事業には片岡球子客員教授を筆頭に教員、卒業生はじめ、守屋多々志、月岡榮貴な ど多くの著名日本画家がこの事業に参加しました。

今回、法隆寺金堂壁画5号壁半跏思椎菩薩像、9号壁弥勒浄土図、11号壁普賢菩薩像の 再現模写において陣頭指揮を執った月岡榮貴と月岡班として愛知県立芸術大学再現模写 事業に携わった5名の日本画家を紹介します。

芸術の基本である個性の発露とは別に、技術や素材を見直す基礎教育の重要な柱として 模写教育を取り入れてきた愛知県立芸術大学の教育的効果を紹介します。



臼井治(うすいおさむ)

1950年 愛知県名古屋市に生まれる 愛知県立芸術大学大学院美術研修科修了 愛知芸術文化センター開館記念 東海の作家たち」(愛知県美術館) 台湾個展(以後 2014年、2016年) 日本美術院特待





熊原 清久(〈まはら きょひさ)

1951年 佐賀県に生まれる 愛知県立芸術大学大学院 卒業 卒業制作桑原賞受賞 セントラル美術館大賞展 佳作賞 名古屋芸術大学非常勤講師(現在に至る) 日本美術院 院友





塚本 敏清 (つかもと としきよ)

1959年 熊本に生まれる 愛知県立芸術大学 卒業 名古屋城本丸御殿復元模写 従事 日本美術院 院友

[潭泊]



木村 惠子 (きむらけいこ)

1949年 愛知県名古屋市に生まれる 愛知県立芸術大学大学院修了 名古屋芸術大学講師(~2003年) 院展を中心に個展グループ展多数 薬師寺へ「持統桜 | 80号を奉納 日本美術院特待



藤野 直也(ふじのなおや)

1955年 福岡市に生まれる 愛知県立芸術大学日本画科修了 修了制作大学買い上げ 「愛知芸術文化センター開館記念 東海の作家たち」(愛知県美術館) 21世紀の旗手展(上野松坂屋) 日本美術院 院友

二人の洋画家 黒田勝・皇展

2022年11月1日以~12月18日(日)

このたび、岐阜県羽島市出身の洋画家、黒田 勝(くろだまさる)、黒田 皇(くろだこう)を 紹介します。

二人は洋画団体国画会で活躍中の親子洋画家で、父:勝は自身の家族を優しく強 い思いで描き続け、息子:皇は自然の摂理や現象をコンピューターグラフィックのよう な鮮やかな色彩の造形で表現しています。それぞれ目指す高みは違えど、お互いを敬 愛し、制作を続ける親子洋画家の深い絆を作品から感じ取ってください。

黒田 勝 略歴

1940年(昭和15年) 岐阜県羽島市に生まれる

1963年(昭和38年) 第37回国展 初出品(東京都美術館 巡回:名古屋·大阪)

1979年(昭和54年) 中日展 出品(S61年佳作賞、S62年佳作賞)(名古屋市博物館) 1989年(平成元年) 第10回中日展招待部門記念賞受賞(名古屋市博物館)

第32回安井賞展 出品(西武美術館 以後各地を巡回)

1991年(平成 3年) 三法荘大賞展大賞受賞(三甲美術館)

1992年(平成 4年) 東海の作家たち招待出品(愛知県美術館)

1995年(平成 7年) 「郷土に輝く先人」21人肖像画完成(岐阜県図書館)

2000年(平成12年) 日中現代美術交流展(中国福建省・愛知・鹿児島) 2002年(平成14年) 日本・中国現代美術展(ニューヨーク)

2005年(平成17年) 21世紀日本・内モンゴル国際交流芸術展(内モンゴル)

2006年(平成18年) 21世紀台湾・日本国際交流芸術展(台北) 2008年(平成20年) 北京オリンピック開催祝日・中国際交流芸術展(北京)

2010年(平成22年) 上海国際博覧会中・目・韓美術作品交流展覧会(上海)

2011年(平成23年) 第85回国展 絵画部 新人賞受賞(国立新美術館 巡回:名古屋・大阪・福岡)

2016年(平成28年) 中部国展5/R賞受賞、H29 黒田 勝 個展(名古屋 5/R Hall & Gallery)

作品収蔵 台湾長流美術館・内蒙古美術館

現在 国画会準会員





2022年

2021年

2011年

⑥ 黒田 皇 《風 ~いぶき~》

⑦ 黒田 皇《意味の輪廻》

黒田 勝・皇 展によせて

「二人の洋画家 黒田 勝・皇 展」が開催される。

二人とは羽島に生まれ育った親子であって、そのよ

うに述べるとなんだかローカル色豊かな微笑ましい

親子展が想像されるかもしれない。しかし多分その

ような思い込みは会場に足を踏み込んだとたんに

ぶっ飛んでしまうに違いない。楽しみである。すでに

80歳を超えた父親と50歳半ばの息子は実に不思

議なことだが互いに20代初めに国画会に出品して

いる。近年、公募団体展は様々な課題を抱えている

が国画会は今日すこぶる活気に溢れている。いわ

ゆる長老級が気力、気迫に満ちた大作と密度の濃

い制作姿勢が会員、準会員、一般に対してレベル

黒田親子はその国画会の準会員と会員である。

もちろん二人の魅力は団体展を超えた父:勝は安

井賞展や中日展、さらに海外の交流展にも挑んで

きた実績である。公募展、コンクールに応募する作

品にはその発想、技法にはただならぬ新鮮さが漲っ

ているのだが、その一方では肖像画の名手でもあ

① 黒田 勝《伊吹山》

低下を許さないからだろう。



る。皇は地元の大学で教鞭を執りつつ、若い学生 に単に絵画制作を導くだけでなく、イラストやアニメ

など現代社会を睨んだ幅広い指導者である。そのよ

うな背景のもとで国画会や私も属するグループACT

展ではコンピューターグラフィック(CG)を駆使する大

作を発表している。グループACT展では社会との接

点を探る鑑賞者を巻き込んだ「コラボレビョウブ(屏

風)」を企画提案したことがある。「コラボレビョウブ」

とは「屏風でコラボレーション」する皇の浩語である。

それはグループACT展のメンバーに90cmの縦長の

パネルを配り、それぞれ各メンバーが自由に仕上げ

て、その全く質の異なるパネルを会場に屏風状に来

場者と一緒に自由に並べる企画であった。この企画

また親子二人には制作のモチーフが日常生活の

中に根差していることも注目していいだろう。家族が

登場することもあり、親しんでいる風景も感じられる。

制作の根底に家族の絆を据えた力強い人間愛の

③ 黒田 勝《先人顕彰室 肖像画「熊谷守一」》

② 黒田 勝《KAZOKU'11-1》 ④ 黒田 勝《先人顕彰室 肖像画「山本芳翠」》

古川秀昭(OKBギャラリーおおがき館長)

優しさが作風の新鮮さの秘密となっていると思う。

は何年も続いたが黒田 皇の常に生活の中に「生き

た美術」を探ろうとしている姿勢が窺われる。

黒田皇 略歴

1968年(昭和43年) 岐阜県羽島市に生まれる

1990年(平成 2年) 第64回国展 初出品 (東京都美術館 巡回:名古屋・大阪)

1991年(平成 3年) 名古屋芸術大学 美術学部絵画学科 卒業

1994年(平成 6年) 第68回国展 絵画部 新人賞受賞

以後、1995年新人賞、1997年新人賞 1996年(平成 8年) 岐阜・現代の美術 招待出品 ~'01(岐阜県美術館)

1997年(平成 9年) ACT展(岐阜県美術館) 以後同展21回出品

名古屋芸術大学大学院 修了 修士(芸術) 2003年(平成15年) 教官と卒業生による具象絵画作品展 招待出品(名古屋芸術大学)

2007年(平成19年) おしゃれイズム 作品出品(放送:日本テレビ系列) 2009年(平成21年) 国画Panel展~国画会作家によるドローイング~(名古屋日動画廊)

2010年(平成22年) 黒田皇展(松坂屋)、以後、2013年

2014年(平成26年) 「鋳じいちゃんの美山語」アニメーション作成指導(企画:山県市)

2015年(平成27年) 「藤ちょこ先生のお仕事展」展覧会企画 (大垣女子短期大学ギャラリーみずき)

2018年(平成30年) 壁画原画制作(株式会社ユニオン郡上営業所)

beyond2020 21世紀のメッセージ展 出品(日本最古の石博物館)

現在 国画会会員 日本映像学会所属 大垣女子短期大学デザイン美術学科准教授







